

松野健治教授が 2019 年度大阪大学賞を受賞

大阪大学大学院理学研究科の生物科学専攻および熱・エントロピー科学研究センター（兼任）の松野健治教授が、2019 年度「大阪大学賞」を受賞されました。本賞は「大学運営」、「教育貢献」、「若手教員」の 3 つの部門から成り、大阪大学の教職員が大学運営、教育および研究上において本学に特に顕著な貢献をした者に対し、その功績を讃えて表彰するということです。

松野先生は本賞の「教育貢献部門」にて、以下に示す「学生間の国際交流推進」の業績で受賞されました。大学間の国際交流は、共同研究による研究の活性化など、短期的に大学の評価を高める要素に加えて、人的交流によって国際関係を円滑化するなどの長期的な役割があります。大阪大学理学研究科生物科学専攻では、後者において学生間の国際交流が特に重要であると考えており、松野先生は今年度の開催が決定しているものも含めて、7 回の国際学生シンポジウムを開催されました。交流先は台湾国立清華大学とフィンランド・ヘルシンキ大学の生命科学系の研究科で、特に、台湾国立清華大学と大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻の間の国際交流は 20 年もの伝統があり、草の根的に小規模で継続されてきたものを、松野先生が双方から Principal Investigator (PI) 5 名ずつ、大学院生 10 名ずつが参加する国際学生シンポジウムに発展させました。その効果は大きく、国際学生シンポジウムを通して育まれた PI 間、学生間の信頼関係がもととなって、大阪大学－台湾国立清華大・ダブルデグリープログラムが締結されました。

11 月 21 日に、吹田キャンパスにある大阪大学コンベンションセンターにて、本賞の表彰式が行われ、西尾章治郎総長（写真中央）から松野先生（写真右）ら各受賞者に対し、記念の盾が授与されました。松野先生の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（宮崎裕司）

